

P・F・ドラッカー著「プロフェッショナルの条件 - いかに成果をあげ成長するか - 」

ダイヤモンド社 2000年6月29日刊を読む

生き生きと働くための方法 - 自らの強みを知る -

1. これからは、誰もが自らをマネジメントしなければならない。自らをもっとも貢献できる場所に置き、成長していかなければならない。やがて、働く期間は50年に及ぶ。その間、生き生きと働くことができなければならない。自らが行うこと、その行い方、行うとき、さらにはそれらをいつ、いかに変えるかを知らなければならない。
2. 知識労働者の寿命は、雇用主たる組織よりも長くなる。博士号のために20代後半まで大学院に残り、労働力市場への参入を遅らせたとしても、労働寿命は50年に及ぶ。今日の先進国の平均寿命を考えると、70代、80代まで生きる。途中からパートタイムになるとしても、75才ごろまでは働ける。
3. 知識労働者たるものは、自らの組織よりも長く生きる。したがって、他の仕事を準備しておかなければならない。キャリアを変えられなければならない。自らをマネジメントすることができなければならない。つまるところ、これまで存在しなかった問題を考えなければならない。
4. 誰でも、自らの強みについてはよくわかっていると思っている。だが、たいていは間違っている。わかっているのは、せいぜい弱みである。それさえ間違っていることが多い。しかし何ごとかをなし遂げるのは、強みによってである。弱みによって何かを行うことはできない。できないことによって何かを行うことなど、とうていできない。
5. 長い人類の歴史において、わずか数十年前までは、自らの強みを知っても意味がなかった。生まれながらにして、仕事は決まっていた。農民の子は農民となり、耕作ができなければ落伍するだけだった。職人の子も職人になるしかなかった。

6 . 今日では、選択の自由がある。したがって、自らの属する場所がどこであるかを知るために、自らの強みを知ることが不可欠となっている。強みを知る方法は一つしかない。フィードバック分析である。何かをすることに決めたならば、何を期待するかをただちに書きとめておく。9 か月後、1 年後に、その期待と実際の結果を照合する。私自身、これを 50 年続けている。そのたびに驚かされている。これを行うならば、誰もが同じように驚かされる。

7 . こうして2、3年のうちに、自らの強みが明らかになる。自らについて知りうることのうち、この強みこそもっとも重要である。さらに、自らが行っていることや行っていないことのうち、強みを発揮するうえで邪魔になっていることも明らかになる。それほどの強みではないことも明らかになる。まったく強みのないこと、できないことも明らかになる。

P111 ~ 112

[コメント]

自己実現をどうはかるかは、積極的に生きようとする人間にとって大きなテーマの1つ。ドラッカー先生がこの問題に真正面から答えた本書は、ドラッカー先生の著作をはじめて読む人には最もふさわしいと考える。

- 2009年5月6日林明夫記 -